



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 85 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

<特集>

- ・最近の施策（文部科学省）
（厚生労働省）

<連続講座>

- ・各地の発達障害者支援センターの取り組み
- ・中学校での通級指導教室の実践

<お知らせ>

- ・第22回大会について



「のりしろ」の幅を広げる機会を逃さずに！

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

小林 倫代

新年度がスタートして1か月余り、新しい環境にも慣れ、おとなしくしていた子どもたちが、そろそろ本領を発揮し始めるころではないでしょうか。先生方は、引き継ぎも終わり、子どものこれまでの情報を基に支援や指導の工夫を考えていることと思います。私たちが目指しているのは、全ての子どもたちが安心して豊かな生活を過ごせるように、環境調整も含め適切な支援や指導をすることです。そのために、担当者は必要な情報を引き継ぎ、専門性を持って、支援や指導に取り組むことが求められています。

2011年3月の東日本大震災を機に、さまざまな場面で「つなぐ」という言葉が聞かれるようになりました。これは、単に防災対策としてだけではなく、日常生活においても人と人のつながりの大切さが意識されるようになってきたからではないでしょうか。

特別支援教育では、大震災が起こる以前からつながることを大切にきてきていると思います。たとえば、学校内の関係者同士や学校内の関係者と外部資源がつながること、本人を中心に保護者、

家族、教師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療・福祉・労働機関担当者、行政担当者、地域住民などの関係者が本人のニーズに応じてつながること、さらには、子どもの成長に合わせ過去から現在そして未来へと情報をつなげることなどです。

つながることは、役割分担している分担範囲のみを実行するだけでは、十分ではありません。役割としての分担範囲を明確に作って、全体的な把握をしないしていると、隙間が生じて大切なことが漏れてしまうかもしれません。つながるために大切なのは、むしろ「のりしろ」の部分です。「のりしろ」のように重なり合って、一緒に進めていく部分がないとうまくつながっていかないと思います。また、「のりしろ」をうまく活用するためにはお互いが専門性を持っていることも必要です。

「のりしろ」の幅を広げるためにも、第22回大会 in 横浜にぜひご参加ください。お待ちしております。

（第22回大会 事務局長）